

史料 番号	字句	よみ	意味
225	服庸 心得 貰はねば 抄紙 汽缶汽機 営繕 荷造 無暗に 間誤つく 外套 委敷 折角 交附 兵籍 罷める 寄留 兵役 勤怠課 公德 仮令 些細 肝要 塵芥 定雇 法被 違背 増歩 叮嚀 漫に 差支 愚弄 徒費 斯様に 徽章 紀元節 天長節 扶助 甘 質素儉約 可成 精励 賞牌 平生 懸念 簡閱点呼 安く 逗留 騰貴 折柄 廉売 所為 譴責 何卒 精勤	服膺【フクヨウ】 ココロエ モラワネバ ショウシ キカンキキ エイゼン ニヅクリ ムヤミニ マゴツク ガイトウ クワシク セツカク コウフ ヘイセキ ヤメル キリュウ ヘイエキ キンタイカ コウトク タトエ ササイ カンヨウ ジンカイ ジョウコ ハッピ イハイ ゾウブ テイネイ ミダリニ サシツカエ グロウ トヒ カヨウニ キショウ キゲンセツ テンチョウセツ フジョ ニジュウ シツソケンヤク ナルベク セイレイ ショウハイ ヘイゼイ ケネン カンエツテンコ ヤスク トウリュウ トウキ オリカラ レンバイ ショイ ケンセキ ナニトゾ セイキン	よく覚えて忘れないこと 常に心がけていなければならぬこと 心構え …してもらわねば …してただけねば 紙をすくこと ボイラー機関のこと 物を造ったり修理したりすること 手入れ 品物を運送できるようにひもをかけた、包んだりすること やたらに うろろうする 戸惑う 面食らう 防寒などのため、衣服の上に着るゆったりした外衣 オーバー 詳しく 苦勞して わざわざ 交付 軍人としての身分 軍籍 職から離れる、退く 本籍地以外の一定の場所に90日以上住所または居所を持つこと 軍籍に編入されて、一定期間軍務に服すること 人事課 公衆道德 もし…だとしても こまかな 非常に大切なこと ちりやごみ 定雇用 本採用 広袖か筒袖で膝丈または腰丈、襟は折り返さないで着る職人などが用いる 規則・命令などにそむくこと 違反 歩合(仕事に応じた報酬)を増す ていねい 理由もなく 支障 人をばかにしてからかうこと 金銭などをむだに使うこと このように 記章 バッジ 日本書紀の伝える神武天皇即位の日に基づいて制定された祝日 天皇の誕生日を祝った祝日 力添えをして助けること 20 つつましくして、出費をできるだけ少なくすること できるだけ 仕事などに精を出してつとめ励むこと 賞として与える記章 メダル ふだん つね日ごろ 気にかかって不安に思うこと 心配 もと陸海軍で、予備役・後備役の下士官・兵や補充兵を召集して行った点呼 安く とどまって進まないこと 物価があがること …の時なので 安売り 行い 振る舞い 職務上の義務違反について警告し、将来を戒めること どうか 仕事にまじめに励むこと
226	俄然 首謀 誡首 罷業 甘 無慮 頓に 呈し 万雷 顛末 歎願 起草 愈	ガゼン シュボウ カクシュ ヒギョウ ニジュウ ムリョ トミニ テイシ バンライ テンマツ タンガン キソウ イヨイヨ	にわかに 急に 中心になって陰謀・悪事を企てること 雇い主が使用人を辞めさせること 解雇 業務・作業をやめること ストライキ 20 おおよそ ざっと 急に にわかに 表す 示す 大きくとどろく音のたとえ 事の最初から最後まで事情 一部始終 事情を詳しく述べて熱心に頼むこと 懇願 草稿を書くこと 文案を作ること ついに

史料番号	字句	よみ	意味
	至極 公明正大 頗る 而して 余興 受附 縷々 痛憤 恰も 騷擾罪 廻送 聴取 窮乏 煽動 茲に 屯ろせる 鳩首 平穩裡に 特高	シゴク コウメイセイダイ スコブル シコウシテ、シカシテ ヨキョウ ウケツケ ルル ツウファン アタカモ ソウジョウザイ カイソウ チョウシュ キョウボウ センドウ ココニ タムロセル キョウシュ ヘイオンリニ トッコウ	この上ないこと とても 公平で、良心に恥じるところがなく正しいこと とても そして また それから 興をそえるために行う演芸 受付 こまごまと詳しく 大いに憤慨すること まさしく ちょうど 多数の者が集まって暴行または脅迫を行い、ある地域の秩序・平和を乱す罪 回送 一度送られてきたものを、改めて他の場所に送ること 転送 聞き取ること 金銭や物品が著しく不足して苦しむこと 気持ちをあおり、ある行動を起こすようにしむけること ここに 一つ所に大ぜいの人が集まる 人々が寄り集まって、額をつきあわせて相談すること 変わったこともなく、おだやかなうちに 「特別高等警察」の略 明治末期から第二次大戦の敗戦まで、思想犯罪取締に当たった警察 国民の思想・言論・政治活動を弾圧した
227	今般 突発 延いては 由々敷 吾人 然るに 鞏固 勇断 互譲 恢復 茲に	コンパン トツパツ ヒイテハ ユユシキ ゴジン シカルニ キョウコ ユウダン ゴジョウ カイフク ココニ	このたび 今度 突然発生すること さらに 容易ならない わたし わたしたち それなのに 強固 強くしっかりして、ゆるがないさま 勇気を出して決断すること 互いに譲り合うこと 回復 もとの状態に戻すこと ここに
228	罷業 強談 威迫 検束 荏苒 慙愧 辞去 誡首 拘留 能はず 糾弾 激烈 突発 延いては 由々しき 吾人 勃発 然るに 勇断 互譲 恢復 特高 憐み 希ふ 小生 懇談 頑として 斥け 打連れ 具に 諒解 派し 費消 差支	ヒギョウ ゴウダン イハク ケンソク ジンゼン ザンキ ジキョ カクシュ コウリュウ アタワズ キョウダン ゲキレツ トツパツ ヒイテハ ユユシキ ゴジン ボツパツ シカルニ ユウダン ゴジョウ カイフク トッコウ アワレミ コイネガウ ショウセイ コンダン ガントシテ シリゾケ ウチツレ ツブサニ リョウカイ サシツカワシ ヒショウ サシツカエ	業務・作業をやめること ストライキ 強い態度や調子で談判すること 威力を示して相手を脅し従わせようとする 警察権によって個人の身体を拘束し、警察署など一定の場所に引致し、一時留置すること 物事が長びくようす 自分の見苦しさや過ちを反省して、心に深く恥じること あいさつをして立ち去ること 雇い主が使用人を辞めさせること 解雇 人を捕らえてとどめておくこと …できない 罪や責任を問いただし、非難すること きわめてはげしいこと 突然発生すること さらに 容易ならない わたし わたしたち 事件などが突然に起こること それなのに 勇気を出して決断すること 互いに譲り合うこと 回復 もとの状態に戻すこと 「特別高等警察」の略 明治末期から第二次大戦の敗戦まで、思想犯罪取締に当たった警察 国民の思想・言論・政治活動を弾圧した 気の毒に思う あわれむ 強く願う 切望する わたし 男性が自分をへりくだってという語 打ち解けて親しく話し合うこと かたくなに人の言うことを受け入れない 寄せつけず追い返す 一緒に連れ立って行く そろって行く 詳細に 理解して承認すること 了承 命じて人を差し向ける 派遣する 使い果たすこと 支障

史料番号	字句	よみ	意味
	顛末 遺憾 捲土重来 陰悪 昂つた 愈々 復業 復職 説服 就業 搾取 暴虐 陋劣 懇篤 鞘途 予は 仄かされた 致方 招致 水泡 憤激 馳付 鎮撫 就縛 曩に 深更 然し 惹し 縷々 可然 肝入 慇懃 因に 金子	テンマツ イカン ケンドチョウライ ケンアク アガッタ イヨイヨ フクギョウ フクシヨク セツプク シュウギョウ サクシュ ボウギヤク ロウレツ コントク サヤ ト ヨハ ホノメカサレタ イタシカタ ショウチ スイホウ フンゲキ ハセツケ チンブ シュウバク サキニ シンコウ シカシ ヒキオコシ ルル シカルベク キモイリ ショウヨウ チナミニ キンス	事の最初から最後まで事情 一部始終 残念に思う 物事に一度失敗した者が、非常な勢いで盛り返すこと あぶないようす 声が発せられる ついに 一時やめていた仕事に再び就くこと 一度離れた職に再び戻ること 相手をときふせて従わせること 仕事に取りかかること しばりとりこと 生産手段の所有者が生産手段を持たない直接生産者を必要労働時間以上に働かせ、そこから発生する剰余労働の生産物を無償で取得すること むごいことをして人を苦しめること いやしく軽蔑すべきであること 懇切丁寧で、心がこもっていること さや 方法 わたし それとなくしめす 仕方 方法 招き寄せること むだになる ひどく怒ること 大急ぎで駆けつける 暴動などをしずめて、民を安心させること 捕われること しばられること 先に 以前に 夜ふけ 深夜 しかし おこす こまごまと詳しく いいように あれこれ世話や斡旋をすること …するように誘って、しきりに勧めること ついでにいえば お金 金銭
229	濛々 復業 罷業 頗る 復し 殊に 兎も角 憩う間 特高 傍杖 差問へ 尠く	モウモウ フクギョウ ヒギョウ スコブル フクシ コトニ トモカク イコウマ トッコウ ソバツエ サシツカエ スクナク	煙などが立ちこめるさま 一時やめていた仕事に再び就くこと 業務・作業をやめること ストライキ とても 戻し とりわけ とにかく 休む間 「特別高等警察」の略 明治末期から第二次大戦の敗戦まで、思想犯罪取締に当たった警察 国民の思想・言論・政治活動を弾圧した とぼっちり 支障 少なく
230	遵守 搾取 統轄 剰余金 積立金 配当金 割戻金 廿 細則	ジュンシュ サクシュ トウカツ ジョウヨキン ツミタテキン ハイトウキン ワリモドシキン ニジュウ サイソク	法律や決まりを守り、従うこと しばりとりこと 生産手段の所有者が生産手段を持たない直接生産者を必要労働時間以上に働かせ、そこから発生する剰余労働の生産物を無償で取得すること 多くの人や機関を一つにまとめて管轄すること 余ったお金 留保した利益のうち積み立てておく金銭 利益や剰余金の配当金 共済で契約者に支払われる剰余金のこと 20 さらに細かく決めた規則
231	購買部 搾取 勿論 無産者 廉売 一翼 極手易に	コウバイブ サクシュ モチロン ムサンシャ レンバイ イチヨク キワメテヤスニ	購買組合の制度にならって、用品などを安く販売する所 しばりとりこと 生産手段の所有者が生産手段を持たない直接生産者を必要労働時間以上に働かせ、そこから発生する剰余労働の生産物を無償で取得すること 言うまでもなく 生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する人 安売り 全体の中での役割などの一端 ごく簡単に

史料番号	字句	よみ	意味
	理窟 予め ガラン洞 ブルジョア商人 モットー 廉価 何程 所要 掛売 貸借契約 若干名 貸借対照表 剰余金 積立金 配当金 割戻金	リクツ アラカジメ ガランドウ ブルジョアショウニン モットー レンカ ナニホド ショヨウ カケウリ タイシャクケイヤク ジャッカシメイ タイシャクタイショウ ヒョウ ジョウヨキン ツミタテキン ハイトウキン ワリモドシキン	ことわり・道理・論理 前もって すっかりなくなっていること 資本家階級に属する人、金持ちの商人 日常の行為の目標や方針となる事柄 安い値段 どれほど 必要とするもの 即金でなく、一定期間後に代金を受け取る約束で品物を売ること 貸し借りの取り決めに定めた契約 少しばかりの人数 一定時点における企業の財政状態を明らかにするために作成される計算書 すべての 資産・負債・資本の有り高を記載し、一覧できるように表示したもの 余ったお金 留保した利益のうち積み立てておく金銭 利益や剰余金の配当金 共済で契約者に支払われる剰余金のこと
232	無産階級 勿論 籾摺機 宛 低廉	ムサンカイキュウ モチロン モミスリキ ズツ テイレン	生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する階級 言うまでもなく 籾から籾殻を取り除いて玄米にする機械 ずつ 金額が安いこと
233	友誼 一瀉千里 詮衡 余興 和気霽々 裡	ユウギ イツシャセンリ センコウ ヨキョウ ワキアイアイ リ	友達のよしみ 友好 物事が速やかにはかどりに進むこと 選考 選ぶ 興をそえるために行う演芸 なごやかで楽しい気分が満ちているさま …のうち
234	賃銀 捲き起せ 搾取らう 然も レコード 遙に 癒らない	チンギン マキオコセ シボリトウ シカモ レコード ハルカニ ナオラナイ	賃金 ひきおこす しばりとること しかも 記録 違いのはなはだしいさま 完治していない
235	プロレタリア 捲き起し 伝単 凡ゆる 疾駆 菜つ葉服 軋り ダイナモ 斗志 昂憤	プロレタリア マキオコシ デンタン アラユル シツク ナツパフク キシリ ダイナモ トウシ キウフン【コウフン】	自分の労働力を資本家に売って生活する賃金労働者 ひきおこす 宣伝ビラ すべての 速く走ること 工場労働者などが着る、薄青色の作業服 強くすれ合って立つ音 発電機 戦おうとする意気込み 戦意 興奮 感情が高ぶること
236	檄 賃銀 糾弾	ゲキ チンギン キウダン	自分の考えや主張を述べて大衆に行動を促す文書 誤用が定着して、励ますこと、また、励ましの言葉や文書の意味でも用いる 賃金 罪や責任を問いただし、非難すること
237	羨望的 折柄 プロレタリア 楼上 馬酔木 網羅 ブル プロ	センボウテキ オリカラ プロレタリア ロウジョウ アシビ、アセビ モウラ ブル プロ	うらやむこと ちょうどその時 折しも 自分の労働力を資本家に売って生活する賃金労働者 階上 あしび・あせび【名】 残らず取り入れること ブルジョアの略＝近代資本主義社会で、資本家階級に属する人 金持ち プロレタリアの略＝自分の労働力を資本家に売って生活する賃金労働者
238	無産者 プロレタリア	ムサンシャ プロレタリア	生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する人 自分の労働力を資本家に売って生活する賃金労働者
239	細胞員 オルグ 安寧	サイボウイン オルグ アンネイ	細胞＝共産党などが、職場・地域などを単位にして設けた党員の末端組織の旧称 そ の末端組織員 組合の組織拡充などのため、本部から派遣されて、労働者・大衆の中で宣伝・勧誘活動 を行うこと 世の中が穏やかで安定していること
240	高唱 而して	コウショウ シコウシテ、シカシテ	大きな声で歌うこと そして また それから

史料番号	字句	よみ	意味
	示威行進 特高 検束 斗争	ジイコウシン トッコウ ケンソク トウソウ	デモ行進のこと 「特別高等警察」の略 明治末期から第二次大戦の敗戦まで、思想犯罪取締に当たった警察 国民の思想・言論・政治活動を弾圧した 警察権によって個人の身体を拘束し、警察署など一定の場所に引致し、一時留置すること 闘争 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと
242	廿 司厨 了へ 鐘楼 演壇を汚し	ニジュウ シチュウ オエ ショウロウ、シュロウ エンダンヨケガシ	20 船舶で、食事のことを担当する人 また、汽船の接客係・ボーイ 終え 寺院の境内にある、梵鐘をつるす建造物 かねつき堂 演壇に立って講演すること
243	政見 現今 相互扶助 互つて 斟酌 峻拒	セイケン ゲンコン ソウゴフジョ ワタッテ シンシヤク シュンキョ	政治を行う上での意見・見解 いま 現在 互いに助け合うこと 亙る およぶ 相手の事情や心情をくみとること 手加減 きっぱりと拒むこと 厳しい態度で断ること
244	予め 貼付 陸続 踵を接し 頗る 摘記 劈頭 一場 凡て 黄白 大道 欺瞞 詭弁 頑迷 走狗 掌る 蹂躪 小作 殊に 人士 遺憾 大審院 諸賢 登壇 搾取 須らく 無産者 稍 曉鐘	アラカジメ チョウフ リクゾク キビスヲセッシ スコブル テキキ、テッキ ヘキトウ イチジョウ スベテ オウビヤク、コウハク ダイドウ ギマン キベン ガンメイ ソウク ツカサドル ジュウリン コサク コトニ ジンシ イカン ダイシンイン ショケン トウダン サクシュ スベカラク ムサンシャ ヤヤ ギョウショウ	前もって はりつけること 慣用読みで「てんぷ」 次々と連なり続くさま 前後の人のかかどが接するほど、次から次へと人が続く とても 要点を抜き書きすること 物事のいちばん初め 最初 冒頭 一席 すべて 金銭 人の行うべき正しい道 根本の道徳 あざむくこと だますこと こじつけ 道理に合わないことを強引に正当化しようとする かたくなでものの道理がわからないこと 考え方に柔軟性がないこと 人の手先に使われる者 役目としてそのことに当たる ふみにじること 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作すること とりわけ 地位や教養のある人 残念に思う 明治憲法下で、最高の位置にあった司法裁判所 みなさん 多くの人々に対して敬意を込めて呼ぶ語 演説などのために壇にあがること しばりとること 生産手段の所有者が生産手段を持たない直接生産者を必要労働時間 以上に働かせ、そこから発生する剰余労働の生産物を無償で取得すること 是非とも 当然 生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する人 少しばかり 新しい時代の始まりを告げ知らせるもの
245	示威 附議 小作人 寧ろ 却って 所以 高唱 気焰 亙り 喚起 膺懲 愈々 揮つて 緊要 歓呼 田吾作式	ジイ フギ コサクニン ムシロ カエッテ ユエン コウショウ キエン ワタリ カンキ ヨウチョウ イヨイヨ フルッテ キンヨウ カンコ タゴサクシキ	威力や氣勢を他に示すこと デモンストレーション 会議にかけること 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 どちらかといえば 反対に 逆に 理由 大きな声で歌うこと 燃え上がるように盛んな意気 議論などの場で見せる威勢のよさ および 呼び起こす うちこらすこと 征伐してこらしめること ついに 十分に発揮する 非常に重要なこと 差し迫って必要なこと 喜んで、大きな声を上げること 農民、または田舎の人のやり方
246	糾弾 徽章 良田 荒蕪地	キウダン キショウ リョウデン コウブチ	罪や責任を問いただし、非難すること 記章 バッジ 地味の肥えた田地 土地が荒れて、雑草の茂るがままになっている土地

史料番号	字句	よみ	意味
	段 段歩 轢殺 而も 能ざる 恬として 弁へ	タン タンホ レキサツ シカモ アタワザル テントシテ ワキマエ	土地の面積の単位 1段(反)は991.74平方メートル 田畑の面積を段(反)を単位として数えるのに用いる語 1段(反)は991.74平方メートル 電車・自動車などの車輪でひき殺すこと さらに その上 …できない 気にかけないで平然としている 物事の道理をよく知っている 心得ている
247	吠	カマス	わらむしろを二つ折りにし、縁を縫いとじた袋
248	日本労農党 労働農民党 社会民衆党 無産政党 勿論 牛耳をとり 奔走 町歩 暁 小作人 東奔西走	ニホンロウノウトウ ロウドウノウミントウ シャカイミンシュウトウ ムサンセイトウ モチロン ギョウジヨトリ ホンソウ チョウブ アカツキ コサクニン トウホンセイソウ	大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 大正15年(1926)創立の無産政党 当初は左派を除外して結成、同年末に左派中心で再建 昭和3年(1928)第1回普通選挙で2名の当選者を出したが、三・一五事件で弾圧を受け、解散させられた 大正15年(1926)労働農民党の左翼化に反対した一派により結成された右翼的無産政党 昭和7年(1932)全国労農大衆党と合同し、社会大衆党に改組 労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 言うまでもなく 団体の中心となって自分の思いどおりに事を運ぶ 牛耳る 忙しく走り回る事 田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 1町は10反(段)で約99.17アール 実現したその際は 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 あちこち忙しく走りまわること
249	一族郎党 引具して 抑々 日本労農党 労働農民党 社会民衆党 専ら 而して 策動 ヂレンマ 分子 窮場 隠に 牽制 桎梏 総同盟 諒解 隠退 囚はれ 狭量 辿り	イチゾクロウトウ ヒキグシテ ソモソモ ニホンロウノウトウ ロウドウノウミントウ シャカイミンシュウトウ モツパラ シコウシテ、シカシテ サクドウ ジレンマ ブンシ キョウバ インニ ケンセイ シッコク ソウドウメイ リョウカイ インタイ トラフレ キョウリョウ タドリ	一族とその関係者 引き連れる 伴う だいたい さて 大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 大正15年(1926)創立の無産政党 当初は左派を除外して結成、同年末に左派中心で再建 昭和3年(1928)第1回普通選挙で2名の当選者を出したが、三・一五事件で弾圧を受け、解散させられた 大正15年(1926)労働農民党の左翼化に反対した一派により結成された右翼的無産政党 昭和7年(1932)全国労農大衆党と合同し、社会大衆党に改組 ただただ そして また それから ひそかに計画をめぐらして行動すること 二つの相反する事柄の板挟みになること 団体を構成している各個人 集団の構成員 困り果てている状況 人に知れないようにする 相手の注意を自分の方に引きつけて自由に行動できないようにすること 足かせ、手かせ 人の行動を厳しく制限して自由を束縛するもの 「日本労働総同盟」の略称 大正10年(1921)友愛会を改称して成立した労働組合の全国組織 数度の分裂のち右派が主導権を握り、産業報国会の成立により昭和15年(1940)解散 内容や事情を理解して承認すること 了解 社会的活動の第一線から退くこと 世間を避けて閑居すること とらえられること 受け入れる心が狭いこと 度量が狭いこと たどること
250	愈よ 労働農民党 日本労農党 日本労民党 凝議 日本農民組合 闘争 相互扶助 無産農民 畢竟 焦燥 妄動 無産階級	イヨイヨ ロウドウノウミントウ ニホンロウノウトウ ニホンロウミントウ ギョウギ ニホンノウミンクミア イ トウソウ ソウゴフジョ ムサンノウミン ヒッキョウ ショウソウ モウドウ ムサンカイキョウ	どうとう ついに 大正15年(1926)創立の無産政党 当初は左派を除外して結成、同年末に左派中心で再建 昭和3年(1928)第1回普通選挙で2名の当選者を出したが、三・一五事件で弾圧を受け、解散させられた 大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 熱心に相談を重ねること 大正11年(1922)に創立された最初の農民組合の統一組織 昭和3年(1928)先に分裂した全日本農民組合(全日農)と再合同して全国農民組合を結成 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと 互いに助け合うこと 生産手段を所有しない農民 小作人 つまるところ 結局 いらいらすること あせること 考えもなくむやみに行動すること 分別を欠いた行動 生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する階級

史料番号	字句	よみ	意味
	妄断 蹂躪 徒らなる 潰滅 枚挙 遑 ケツ然 陰険 毒手 掃蕩 委棄 攪乱 排斥	モウダン、ボウダン ジュウリン イタズラナル カイメツ マイキョ イトマ 蹶然【ケツゼン】 インケン ドクシュ ソウトウ イキ カクラン ハイセキ	はっきりした根拠もなく断定すること 誤った判断を下すこと ふみにじること 無駄な むなししい すっかりだめになってしまうこと 組織などが総崩れになること いちいち数え上げること ひま 勢いよく行動を起こすさま 表面は何気なく装いながら、心の内に悪意を隠しているさま あくどい手段 掃討 残らず払い除くこと 遺棄 捨てて顧みないこと 置き去りにすること かき乱すこと 受け入れられないとして、しりぞけること
251	帝国主義 闘争 取捨選択 一知半解 相互扶助 無産農民 盲動 而して 日本農民組合 穩健 凡て	テイコクシュギ トウソウ シュシャセンタク イチハンカイ ソウゴフジョ ムサンノウミン モウドウ シコウシテ、シカシテ ニホンノウミンクミア イ オンケン スペテ	政治・経済・軍事などの面で、他国の犠牲において自国の利益や領土を拡大しようとする思想や政策 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと 必要なものを選び取り、不要なものを捨てること 物事の理解のしかたが中途半端なこと なまかじりの知識 生半可 互いに助け合うこと 生産手段を所有しない農民 小作人 考えもなくむやみに行動すること 分別を欠いた行動 そして また それから 大正11年(1922)に創立された最初の農民組合の統一組織 昭和3年(1928)先に分裂した全日本農民組合(全日農)と再合同して全国農民組合を結成 考え方や言動などがおだやかで、行きすぎがないこと すべて
252	全日本農民組合 争議 闘争 ギマン かます オヂヤン 立禁 互る 立毛 共同戦線	ゼンニホンノウミンクミア イ ソウギ トウソウ ギマン カマス オジャン リッキン ワタル タチゲ キョウドウセンセン	昭和2年(1927)日本農民組合の分裂により生まれた、日本労農党支持の農民組合中央組織 立場を異にする者が互いに意見を主張して争うこと 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと 欺瞞=あざむくこと だますこと わらむしろを二つ折りにし、縁を縫いとじた袋 だめ 立ち入り禁止 およぶ 農作物の収穫する前の状態 共通の目的のためにつくる協力体制
253	争ギ 致方 心算 殆ど 小為替	ソウギ イタシカタ シンサン、ココロヅモリ ホトンド コガワセ	立場を異にする者が互いに意見を主張して争うこと 仕方 方法 心積もり おおかた 大部分 旧制の郵便為替の一 為替振出請求書を必要とせず、為替金と為替料とを郵便局の窓口に出せば小為替証書が交付された 昭和26年(1951)廃止
254	廿 示威 狭隘 腐朽 筆 坪 過般 而して バラス 小作地 日本農民組合 耕耘 代作地 涙金 進捗 小作人 由 憂慮 奔走 段歩 卅 小作権	ニジュウ ジイ キョウアイ フキュウ ヒツ ツボ カハン シコウシテ、シカシテ バラス コサクチ ニホンノウミンクミア イ コウウン ダイサクチ ナミダキン シンチョク コサクニン ヨシ ユウリョ ホンソウ タンホ サンジュウ コサクケン	20 威力や氣勢を他に示すこと デモンストレーション 狭くゆとりがないこと 腐って形が崩れること 登記簿上の土地の区画 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 5200坪=17,160㎡ さきごろ 先日 そして また それから バラスト【ballast】の略 鉄道線路・道路などに敷く砂利 小作人が地主から借りて、耕作している農地 大正11年(1922)に創立された最初の農民組合の統一組織 昭和3年(1928)先に分裂した全日本農民組合(全日農)と再合同して全国農民組合を結成 田畑を耕し、雑草を取り去ること 代わりの耕作地 同情して与える金 また、お情けで与えるわずかな金 物事がはかどること 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 …とのこと 心配すること 思いわずらうこと 忙しく走り回ること 田畑の面積を段(反)を単位として数えるのに用いる語 1段(反)は991.74平方メートル 30 小作人が小作地を耕作する権利

史料 番号	字句	よみ	意味
	斯くて 此儘 路頭に迷ふ 小作料 勿論 何処までも	カクテ コノママ ロトウニマヨウ コサクリョウ モチロン ドコマデモ	こうして このまま 生活の道をなくし、住む家もなく、ひどく困ること 小作人が地主に支払う小作地の使用料 言うまでもなく 徹底して とことん
255	日本農民組 合 曩に 小作人 腐心 町 反 涙金 尽力 懇願 斯かる 峻拒 举措 小作権 窮状 翻弄 慊焉たらず 威嚇 茲に 此儘 嚙付ても 喰らう 恐喝 段歩 金円 喝取 過当	ニホンノウミンクミア イ サキニ コサクニン フシン チョウ タン ナミダキン ジンリョク コンガン カカル シュンキョ キョソ コサクケン キュウジョウ ホンロウ ケンエンタラズ イカク ココニ コノママ カミツイテモ クラウ キョウカツ タンホ キンエン カツシュ カトウ	大正11年(1922)に創立された最初の農民組合の統一組織 昭和3年(1928)先に分裂した全日本農民組合(全日農)と再合同して全国農民組合を結成 先に 以前に 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 事を成し遂げようと心をくたくこと 土地の面積の単位 1町は10反(段)で、約99.17アール 土地の面積の単位 1反は991.74平方メートル 同情して与える金 また、お情けで与えるわずかな金 力を尽くすこと ひたすらお願いすること このような きっぱりと拒むこと 厳しい態度で断ること 立ち居振る舞い 小作人が小作地を耕作する権利 困り果てているようす 思うままにもてあそぶこと 手玉にとること 満足に思わず 威力をもっておどすこと ここに このまま かみつく くらう 相手の弱みなどにつけこみおどすこと 田畑の面積を段(反)を単位として数えるのに用いる語 1段(反)は991.74平方メートル かね 銭 おどしとる 適当な程度を超えている
256	予審尋問 被告 訊問 蔬菜 抱懷 日本農民組 合 這入つた 現今 小作料 小作人 兎に角 遺憾 可成く 穩健 嫌ひ 宛 趣意 尤も	ヨシンジンモン ヒコク ジンモン ソサイ ホウカイ ニホンノウミンクミア イ ハイッタ ゲンコン コサクリョウ コサクニン トニカク イカン ナルバク オンケン キライ ズツ シュイ モットモ	公判前に行う刑事事件の取調べ 訴訟において、訴えられたほうの当事者の第一審における呼び名 問いたですこと 取り調べとして口頭で質問すること 野菜 ある考えを心にもつこと 大正11年(1922)に創立された最初の農民組合の統一組織 昭和3年(1928)先に分裂した全日本農民組合(全日農)と再合同して全国農民組合を結成 はいった 加入した いま 現在 小作人が地主に支払う小作地の使用料 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 ともかく とにもかくにも 残念に思う なるべく できるだけ 考え方や言動などがおだやかで、行きすぎがないこと 好ましくない傾向 ずつ 物事をなすときの考えやねらい 言わんとする意味 趣旨 まったく
257	小作争議 立毛 鬱憤 小作人 備ふ 町歩 所報 斡旋 懇々 平生 紛擾 示威 窮状 曙光	コサクソウギ タチゲ ウップン コサクニン ヤトウ チョウブ ショホウ アッセン コンコン ヘイゼイ フンジョウ ジイ キュウジョウ ショコウ	小作人と地主との間に、小作料・耕作権などについて起こる紛争 農作物の収穫する前の状態 心の中に抑えている怒りや恨み 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 雇う 賃金を払って人を使う 田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 1町は10反(段)で約99.17アール 報じるところ 間に入って双方をうまく取り持つこと 親切にくりかえし言うこと つね日ごろ もめごと ごたごた 威力や氣勢を他に示すこと デモンストレーション 困り果てているようす 物事の前途に見えはじめた明るいきざし

史料番号	字句	よみ	意味
	小作料 石斗升 常免地租 勿ねられる 供託 競売 換価 送達 執達吏 争議 伏流水 井水 尺 瀬する	コサクリョウ コク ト ショウ ジョウメン チソ ハネラレル キョウタク キョウバイ、ケイバイ カンカ ソウタツ シッタツリ ソウギ フクリュウスイ セイスイ シャク ヒンスル	小作人が地主に支払う小作地の使用料 尺貫法の容積の単位 1石は10斗で、180.390 尺貫法の容積の単位 1升の10倍、すなわち約18.039リットル 尺貫法の容量の単位 1升は1斗の10分の1 約1.8リットル 定免 一定の期間内はその年の豊凶に関係なく、定額の租税(小作料)を徴収すること 土地に対して課せられる租税 かすめ取られる 金銭・有価証券その他の物品を供託所または一定の者に寄託すること 複数の買い手に値をつけさせて、最高価格を申し出た者に売る方法 物の値段を見積もること 送り届けること 訴訟上の書類を当事者その他の訴訟関係人に了知させるために送り届けること 執行官の旧称 立場を異にする者が互いに意見を主張して争うこと 河川の砂礫(されき)層などの地中を流れる水 井戸の水 尺貫法の長さの単位 1寸の10倍 1尺は約30.3センチ 迫る
258 259	日本労農党 闘争 広汎 サツ新 凡ゆる 無産大衆 旗下 挙つて	ニホンロウノウトウ トウソウ コウハン サツシン アラユル ムサンタイシュウ キカ コゾツテ	大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと 広く行きわたる 力や勢いの及ぶ範囲が広い 刷新 弊害を除き去って、全く新しいものにする すべての 財産や資産のない多くの人 特定の考え方の影響下 一人も残らず 全員で
260	日本労農党 綱領 選衝 盛会 裡	ニホンロウノウトウ コウリョウ センコウ セイカイ リ	大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 政党や労働組合などの団体の政策・方針などの基本を示したもの 選考 えらぶ 盛大でにぎやかな会合 …のうちに
261	忝なうし 不肖 貴下 立志伝中の人 所謂 推賞 政見 弁舌 雄弁 獅子吼する 風彩 清貧 確乎たる 具備 而して 腐敗 普選	カタジケノウシン フショウ キカ リッシンチュウノヒト イワユル スイショウ セイケン ベンゼツ ユウベン シンクスル フウサイ【フウサイ】 セイヒン カッコタル グビ シコウシテ、シカシテ フハイ フセン	身にすぎて、ありがたい 未熟で劣ること 自分のことをへりくだっていう あなた 同等または目下の相手に対する敬称 苦労と努力を重ねて志を遂げ、成功した人 世間一般に言われる よくいう すぐれていることを、他の人に向かってほめたたえること 政治を行う上での意見・見解 ものの言い方 話しぶり 説得力をもって力強く話すこと 雄弁をふるうこと 意気盛んな大演説をすること 容姿・服装・態度などの、人の見かけ上のようす 私欲をすてて行いが正しいために、貧しく生活が質素であること 確かな 必要な要件を備えていること そして また それから 墮落すること 「普通選挙」の略 身分・性別・教育・信仰・財産・納税額などによって制限せず、国民に等しく選挙権を認める選挙制度 日本では、大正14年(1925)に男子について普通選挙制が実現
262	弾圧	ダンアツ	おさえつけること 支配者が権力を行使して反対勢力の活動を抑圧すること
263	日本労農党 日本労民党 無産大衆 斃れたる 政友会 民政党 ブルジョア 官憲	ニホンロウノウトウ ニホンロウミントウ ムサンタイシュウ タオレタル セイユウカイ ミンセイトウ ブルジョア カンケン	大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 財産や資産のない多くの人 負かされた 屈した 「立憲政友会」の略 明治33年(1900)伊藤博文により旧自由党系の憲政党を吸収して結成された政党 原敬(はらたかし)総裁のときに本格的政党内閣を組織 その後、立憲民政党とともに政党政治時代を担ったが、五・一五事件後衰退し、昭和15年(1940)解党 「立憲民政党」の略 昭和2年(1927)憲政会と政友本党とが合同し、浜口雄幸を総裁に結成された政党 立憲政友会とともに政党内閣期を担った 同15年、新体制運動に吸収され解党 近代資本主義社会で、資本家階級に属する人 金持ち 官庁・役所 また、官吏・役人 特に警察関係にいう

史料番号	字句	よみ	意味
	ブル 無産党 宛 特種 血盟	ブル ムサントウ ズツ トクシュ ケツメイ	「ブルジョア」の略 労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 ずつ 特別な種類 血判を押ししたり、血をすすり合ったりして、固く誓い合うこと
264	日本労農党 全日本農民組合 ゼンニホンノウミンクミアイ 立憲代議政治 俸給 有産階級 殆ど 然し乍ら 専制政治 覚醒めて	ニホンロウノウトウ リッケンダイギセイジ ホウキウ ユウサンカイキウ ホトンド シカシナガラ センセイセイジ メザメテ	大正15年(1926)労働農民党から分裂した中間派の無産政党 昭和3年(1928)無産政党の小党合同により日本大衆党に発展解消 昭和2年(1927)日本農民組合の分裂により生まれた、日本労農党支持の農民組合中央組織 国民の選挙によって選ばれた議員が、国民を代表して立法、政治を行うこと 給料 サラリー 資本家・地主など財産をもっている階級 おおかた 大部分 しかしながら 個人が絶対的権力をもって恣意(しい)的に支配する政治形態 目が覚めること
265	日本大衆党 無産者 火蓋を切つた 恥辱 小作人	ニホンタイシュウトウ ムサンシャ ヒビタヲキリツタ チジョク コサクニン	昭和3年(1928)12月1日創立 日本農民党・日本労働党・無産大衆党を中心とする7党合同で成立 昭和5年(1930)7月30日全国大衆党へ 生産手段を所有せず、労働で得た賃金で生活する者 戦いや競争を開始する はじ はずかしめ 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者
266	日本大衆党 普選 無産党 鼎立 殊に 細君 未決監 刷新 最尖端 戸別訪問 因襲 懐柔 輿望	ニホンタイシュウトウ フセン ムサントウ テイリツ コトニ サイクン ミケツカン サッシン サイセンタン コベツホウモン インシュウ カイジウ ヨボウ	昭和3年(1928)12月1日創立 日本農民党・日本労働党・無産大衆党を中心とする7党合同で成立 昭和5年(1930)7月30日全国大衆党へ 「普通選挙」の略 身分・性別・教育・信仰・財産・納税額などによって制限せず、国民に等しく選挙権を認める選挙制度 日本では、大正14年(1925)に男子について普通選挙制が実現 労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 鼎(かなえ)の足のよう、三者が互いに対立すること とりわけ 同輩以下の人の妻をいう語 未決囚を拘禁する施設 拘置所や代用監獄(警察の留置場)をいう 弊害を除き去って、全く新しいものにする いちばん先のはし 選挙の候補者や運動員が投票を依頼するために、各戸を訪問して回ること 古くから伝えられてきた風習 たくみに手なずけて従わせること 世間一般の人々から寄せられる信頼・期待
267 268	全国大衆党 斗争 宛	ゼンコクタイシュウトウ トウソウ ズツ	昭和5年(1930)7月20日創立、日本大衆党と全国国民衆党が合同して全国大衆党となり、さらに新労働党が解消派を除名して同年12月同党への合同を決議した 昭和6年(1931)7月5日全国労働大衆党へ 闘争 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと ずつ
269	結社 余猶 毫も	ケツシャ ヨユウ ゴウモ	特定多数の人が、共通の目的を達成するために合意によって組織する団体を作ること ゆとり 少しも
270	結托 壟断 新興 貼付 斯して	ケツタク ロウダン シンコウ チョウフ カクシテ	示し合わせてぐるになること 利益や権利を独り占めにすること 新しくおこること はりつけること このようにして
271	排斥 糾弾 引責 廉売	ハイセキ キウダン インセキ レンバイ	受け入れられないとして、しりぞけること 罪や責任を問いただし、非難すること 責任を取ること 安売り
272	無産政党 刷新 凡ゆる 殊に 野田醬油 然らば 誘引 言辞 弄する シコタマ 闘争	ムサンセイトウ サッシン アラユル コトニ ノダショウユ シカラバ ユウイン ゲンジ ロウスル シコタマ トウソウ	労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 弊害を除き去って、全く新しいものにする すべての とりわけ 現キッコーマン そうであるなら 誘い入れること 言葉 もてあそぶ たくさん どっさり 社会運動や労働運動などで、権利や要求を獲得するために争うこと

史料 番号	字句	よみ	意味
	排斥 糾弾 不徳漢 安閑 君臨 建議 差金 無産党 純然	ハイセキ キュウダン フトクカン アンカン クンリン ケンギ サシガネ ムサントウ ジュンゼン	受け入れられないとして、しりぞけること 罪や責任を問いただし、非難すること 人の行うべき道に反した奴 のんびりとして静かなさま 何もせずぼんやりしているさま 統治すること 他を支配すること 意見を申し立てること 陰で人に指図して操ること 労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 まじりけのないさま